

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	臨床生理検査学実習 (Clinical Physiology Practice)		
ナンバリングコード	S30331	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 応用レベル / 臨床検査学
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S009101	クラス名	-
担当教員名	佐野 成雄、日下 雅友		
履修上の注意、履修条件	臨床検査学コースの学生は必ず履修し、全ての実習に出席すること。 原則として指定した教科書に準じて授業を行うが、補足の資料を配布する。 実践的な内容のため、必ず予習をしておくこと。		
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 第2版(医歯薬出版、2022)		
参考文献及び指定図書	生理機能検査学実習書(医歯薬出版、2012)、 病気がみえるvol.2循環器 第5版(MEDIC MEDIA、2021) スパイロメトリーの基本と秘訣(田口善夫監修、柴田正慶著、克誠堂出版) 【臨床検査学実習書】脳波・誘発電位検査ポケットマニュアル(医歯薬出版、2021)、神経伝導検査		
関連科目	解剖学、生理学、臨床生理検査学1、臨床生理検査学2、画像検査学、画像検査学実習		

○基本情報	
授業の目的	生理機能検査の中で、循環機能検査領域である標準12誘導心電図検査、運動負荷心電図検査、足関節上腕血圧比(ABI)/脈波伝播速度(PWV)を実施する。呼吸機能検査領域であるスパイロメリーを中心に簡易終夜睡眠ポリグラフ(PSG)検査を実施する。神経・筋機能検査領域である脳波検査、神経伝導検査、誘発電位検査を実施する。感覚機能検査領域である聴力検査を実施する。各検査装置を使用し記録解析するとともに評価法を理解する。また安全対策および被験者対応(接遇)についても学修する。
授業の概要	心電図などの循環機能検査、スパイロメトリーなどの呼吸機能検査、脳波などの神経・筋機能検査では、検査機器の構造と機能、測定原理、検査機器のトラブル(アーチファクトを含む)時の対応などを修得する。また、検査結果については、特徴的な臨床例を参照しながら考察し、これらの測定結果と臨床診断との関連性について理解を深める。味覚・嗅覚検査などの感覚機能検査では、検査機器の構造と機能、測定原理を理解する。生体計測の技術や結果の解釈のみならず、生体検査に不可欠な患者さんに対する接遇を実習を通じて学修する。 (①～⑦ 佐野成雄) 循環機能検査、呼吸機能検査 (⑧～⑩ 日下雅友) 脳波検査 (⑪～⑬ 政元いずみ) 神経・筋機能検査、感覚機能検査
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「実験・実習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式 「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング 「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	佐野成雄: 生理機能検査全般(臨床経験38年) 日下雅友: 生理機能検査全般 政元いずみ: 循環機能検査領域

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	・被験者に対する適切な接遇を実践できる。 ・実習テストに必要な対人コミュニケーションおよびプレゼンテーションを習得する。	20点		
【ディプロマ・ポリシー2】	装置を使用し、一連の検査の流れを修得する。 1.生理検査の手技および注意点を修得し実践できる。 2.検査の良、不良を鑑別する着眼点を修得する。	50点	20点	
【ディプロマ・ポリシー3】	・チーム医療において、多職種間の伝達および問題解決の方法を習得する。		10点	
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
・実習中のテスト(70 %)と提出物(30 %)で評価を行う。 ・実習に出席していない場合、原則その分評価(加点)しない。 ・提出物(課題レポート等)のフィードバックは、次回以降の実習内等で適宜行う。

○その他
・教科書に準じた資料を配布することがある。 ・授業プログラムは、シラバスに沿って実施するが、実習の進捗状況や医療状況を考慮しながら、再調整することがある。 ・実習内容についての質問・要望等は、実習前後に実習室で受け付ける。 ・学習相談は、授業終了後もしくはオフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室で行う。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名 担当教員	臨床生理検査学実習 (Clinical Physiology Practice) 佐野 成雄、日下 雅友	授業コード	S009101
学修内容				
1. 循環機能検査1 ガイダンス(実習心得)、心電計などの安全対策および被験者対応について				
予習	心電図検査について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
2. 循環機能検査2 心電図検査(R-R間隔検査含む)の実際				
予習	心電図検査(R-R間隔検査含む)について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
3. 循環機能検査3 心電図検査(R-R間隔検査含む)、負荷心電図検査の実際、解析と評価 実技試験				
予習	心電図検査(R-R間隔検査含む)、負荷心電図検査の実際、解析と評価方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
4. 循環機能検査4 ABI/PWV(足関節上腕血圧比/脈波伝播速度)検査の実際、解析と評価 実技試験				
予習	ABI/PWV(足関節上腕血圧比/脈波伝播速度)検査の実際、解析と評価方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
5. 呼吸機能検査1 呼吸機能検査機器の安全対策および被験者対応について、呼吸機能検査の実際①				
予習	呼吸機能検査機器の安全対策および被験者対応について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
6. 呼吸機能検査2 呼吸機能検査の実際②、PSG検査の実際				
予習	呼吸機能検査の一連の流れ、検査のポイント、注意点について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
7. 呼吸機能検査3 呼吸機能検査、PSG検査の解析と評価 実技試験				
予習	呼吸機能検査、PSG検査の解析と評価方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
8. 神経・筋機能検査1 機器の安全対策および被験者の対応について、脳波検査(賦活脳波を含む)の実際①				
予習	脳波計・筋電計の安全対策および被験者の対応、脳波検査(賦活脳波を含む)について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間

○授業計画	科 目 名 担当教員	臨床生理検査学実習 (Clinical Physiology Practice) 佐野 成雄、日下 雅友	授業コード	S009101
学修内容				
9. 神経・筋機能検査2				
脳波検査(賦活脳波を含む)の実際②				
予習	電極装着方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
10. 神経・筋機能検査3				
脳波検査(賦活脳波を含む)の解析と評価、神経伝導検査(F波を含む)の実際				
予習	脳波検査(賦活脳波を含む)の解析と評価方法、神経伝導検査(F波を含む)について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
11. 神経・筋機能検査4				
神経伝導検査(F波を含む)の実際、解析と評価 実技試験				
予習	神経伝導検査(F波を含む)の実際、解析と評価方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
12. 神経・筋機能検査5				
誘発電位検査(ABRなど)の実際、解析と評価				
予習	誘発電位検査(ABRなど)の実際、解析と評価方法について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
13. 感覚機能検査				
聴覚検査の実際、解析と評価				
予習	聴覚検査の実際、解析と評価について予習する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
14. その他の検査、臨床生理検査学実習のまとめ①				
その他の検査、臨床生理検査学実習のまとめ①				
予習	その他の検査、臨床生理検査学実習のまとめとして質問・疑問点をまとめる。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
15. 臨床生理検査学実習のまとめ②				
実技試験				
臨床生理検査学実習のまとめとして質問・疑問点を整理し問題解決を図り、実習の総まとめを行う。				
予習	臨床生理検査学実習のまとめとして質問・疑問点を整理する。			約2時間
復習	実習レポートの作成には積極的に取り組み、実習内容について復習する。			約2時間
16.				
予習				
復習				